



【育成を目指す資質・能力】歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

【単元の目標】貨幣経済の浸透による日本社会の変化が身分制に影響を与えたことを理解する。
・身分制を立て直せなかった理由を、多面的・多角的に考察し、日本社会の変化や江戸幕府の改革と関連させて表現する。
・身分制を立て直せなかった理由を、江戸時代の日本社会や政治の様子と関連させながら追究する。

【単元を貫く課題】「江戸時代中期に身分制の揺らぎが進行したのはなぜか？」

【期待される生徒の表現】

・江戸時代中期に身分制の揺らぎが進行したのは、貨幣経済の浸透により経済力をつけた人々や貧しい人々が一揆や打ちこわしを行うようになり、その中で江戸幕府が改革を行ったものの、民衆の不満が増大したから。
・身分制の揺らぎが進行したのは、人々が文化の担い手になるまでに経済力をつけたことで一揆や打ちこわしを行うようになり、その中で江戸幕府が改革を行うも、幕府の政治を批判するような考え方が生まれるなど、民衆の不満が増大したから。



【池川中学校全体の取組】

- ▶教科間連携
- ▶授業スタンダードの日常化
- ▶振り返りの充実
- ▶ICTの活用
- ▶カリキュラム・マネジメント

振り返りの充実のために全教科で取り組んでいること

- ①なぜ「振り返り」が大切なのかを生徒に伝える
→授業の中で、各学級で、全校朝礼で
- ②「振り返り」の時間を確保する
→1時間完結授業を目指す、最後の5分は振り返り
- ③「振り返り」がしっかりできる授業、めあて・課題の設定、板書づくり・ノートづくりを行う
→板書・ノートをICTを活用して教員同士が見合う

5/25 教材研究会

【池川中学校 チーム会より 授業づくりについて】

- ①見方・考え方(比較・関連)を働かせるための工夫
・めあての中で見方・考え方について意識するポイントを提示する
・個々に合ったノートのまとめ方の指導
- ②対話を通して、考えを練り上げるための工夫
・個人思考の時から「結論」と「理由」を意識してまとめる
・グループでの話し合いの際に「結論→理由」の順で説明をする
- ③振り返りの充実
○振り返りの意義
1. 「何をどのように学んだのか」を客観的に認知する
2. 学びを自分にとって価値あるものにする
3. 学習内容を効率的に定着させる
4. 自分なりの学び方を発見する

振り返りを、ノート、もしくはICT端末のどちらかに記述するかは、生徒自身に選択させる。

- 協議の柱 ①単元の各授業の課題とまとめとの整合性が取れているか
②本時までの各授業のまとめが、本時の課題解決につながるものになっているか

参加者の声より



課題が明確であり、何を説明できるようになればいいか、見通しが持ちやすい。

「幕府は身分制を本当に維持したかったのか」というような課題をつくると、生徒たちの考えに多様性が生まれるのではないかと。

単元を貫く課題である「身分制の揺らぎ」とは何かを明確にした上で、まとめの記述と単元のゴールについて、さらに考えていく必要があるのではないだろうか。

【単元づくりのポイント】

資質・能力を育成するためには、付けたい力をどのように設定するのかというゴールから単元を考えることが大切

【単元づくりの過程】

- ①学習指導要領解説をもとに、単元で育成を目指す資質・能力を明確にする。
- ②資質・能力を身に付けた子どもの姿や、引き出したい子どもの振り返りの記述、つまり単元のゴールを設定する。
- ③単元を貫く課題と「めあて」となる各時間の問いを設定する。
- ④資質・能力の育成に向けた1時間ごとの学習課題を設定する。
- ⑤子どもの「振り返り」から、教材研究や教師の手立てを振り返る。

6/22 授業研究会

【本時の生徒の様子】

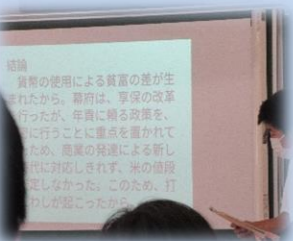
①課題に対して個人思考



②グループで共有



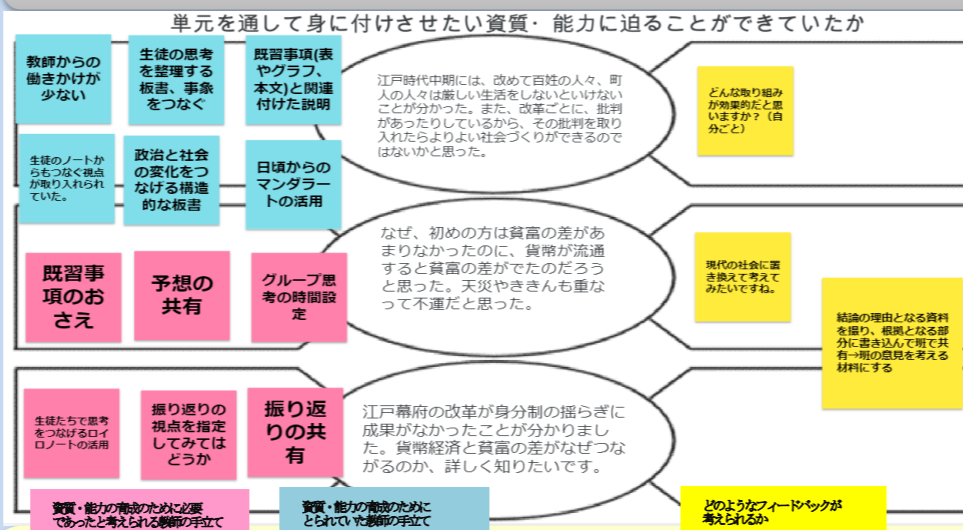
③まとめたことを発表



④振り返りの記述



協議の柱 単元を通して身に付けさせたい資質・能力に迫ることができていたか。
～生徒の「振り返り」の記述から～



【授業の終末に生徒が実際に記述した振り返りをもとに協議(参加者の声より)】

- ・生徒の「身分制の揺らぎ」の捉えが弱く、根拠を明確にしての意見形成がなされていなかったのではないかと。
- ・振り返りを書く際に、振り返りの視点が示されており、生徒が振り返りを書きやすい。また、本時の内容を整理しやすい手立てがとられている。
- ・資料をもとに根拠を持って発表させると振り返りの記述が変わっていくのではないかと。

【愛媛大学教育学部 井上昌善 准教授 より】

- ◎「江戸時代の身分社会の変化」に関する学習内容をどのように設定するかがポイント
→この時代の社会の変化の要因は何かを追究していく
- ◎「身分制」の動揺とは、社会の変容である
→当時の農村は、どのように変化したのか? そのように変化したのはなぜか?
〔村〕貨幣経済の浸透による格差の拡大 〔町〕貨幣経済の浸透による同身分の人々間の格差の拡大
- ◎教師によるフィードバックのポイント
→学習の目標に照らして、どこがよくできており、どこを改善する必要があるかをできるだけ具体的に示すこと。それを繰り返すことで、生徒は評価の目的は成績をつけることではなく、学習の向上のためのものであると少しずつ考えるようになる。さらに教師自身もこのようなコメントができるような課題を工夫するようになってくる。保護者にとっても、点数を示されるだけよりは、改善すべき点が具体的に分かった方が支援につながる。

【授業者より】

発問については、再度見直しを行い、付けたい力に向かっていける具体的な発問にしていきたいです。ICTを活用して、教員同士が授業の板書や振り返りを共有し、授業改善を行っています。ぜひ、皆さんも活用してみてください。

【参加者アンケートより】

- ・振り返りに対するフィードバックの仕方を、具体的にコメントにて生徒に返信できるように改善していきたい。
- ・生徒に返すフィードバックについては、生徒が自らの学びの改善、教員自身が改善につなげていくための必要な手立てを学ぶことができた。